

# 環境教育「まず、今できることから」

## 歴史に学ぶ

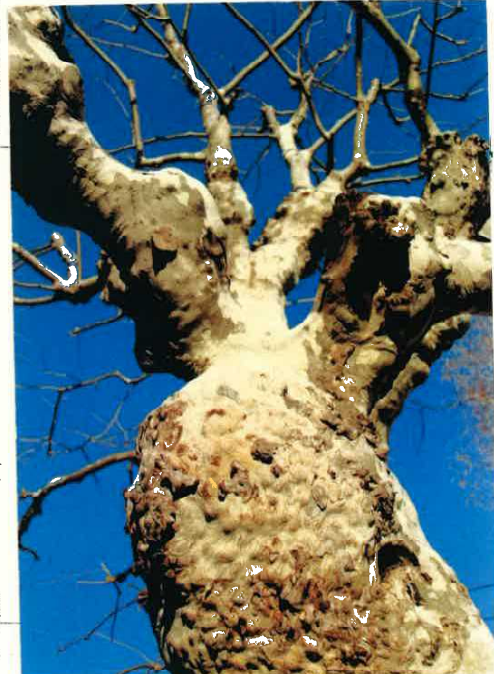
発行所：地域環境活性化協議会  
編集者：代表幹事 高橋 賢一  
連絡先：市民活動支援センター  
尾張旭市渋川町三丁目5番地7  
(渋川福祉センター内)  
TEL 0561-51-2878



▲ 何処ですか、風景はみすばらしい。か木と育てる。赤い葉っぱ

身近な雑草に育てられてきたのだ。ホトケノザ。ラッパを思わす可憐な花をさく見れば、ちままと派手な模様が有る。あれはハチのためのヘリポートなのだ。そうだ、そこに着陸したハチは今度は花の奥へと導く緑を目にする。この標識通りに進めば、ハチは密を

### 大きな木は何百年も見てきた。



手にし、知らぬうち受粉作業も果す。ホトケノザの花は、誘客上手な経港である。次はハコヘ。その柔らかい茎をちまこ引き張りちまると、細い筋が出てくる。強すぎる茎は踏まれば、ボキと折れる。柔らかいだけなら、簡単にちまられる。ハコヘの柔らかい身と茎は



2010/05/14

▲ の様だ。踏み出す彫刻。大木も舞台で芸術の春。

中に丈夫な筋を持つ。柔らかい身のこなしに、世の通った強さ。実にあるはれば生きがみだ。草むしり中に虫をわす、ダンゴムシにも、驚かされるかの虫は、なぜコンクリートブロックの罅りに蠢いているのか。あの錠は炭酸カルシウムからできている。人が骨を強くするためには、牛乳を飲むように、ダンゴムシはコンクリートを食べているのだ。標識完備の花にブロック塀を食へる虫。感心ばかりして、草むしりは進まない。



▲ 木の押し相撲をして、神木に勝ったのです。鹿のボスが春を待つ。

